

2021年 8月 26日

進行性脊髄軟化症についてのアンケート

オーナー様・動物さんについて	
氏名	
動物さんお名前	いぬ雄
犬種	トイプードル
性別	<input checked="" type="checkbox"/> ♂(去勢: <input checked="" type="checkbox"/> 有・無) <input type="checkbox"/> ♀(避妊: 有・無)
生年月日	(2016)年 (4)月 (16)日

進行性脊髄軟化症と言う病気について罹患前はお存知でしたか？
<input type="checkbox"/> 知っていた <input checked="" type="checkbox"/> 知らなかった
麻痺の発症日はいつでしたか？覚えておられましたらお答えください。また手術をいつ受けられましたか？
麻痺の発症日 (2019)年 (3)月 (1)日 手術日 (2019)年 (3)月 (4)日
当院の治療をどのようにして知りましたか？
<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ (ブログ含む) <input type="checkbox"/> SNS (Instagram、YouTube 等) <input type="checkbox"/> 他院のご紹介 <input type="checkbox"/> お知り合いのご紹介 (お名前:) <input type="checkbox"/> その他 ()
進行性脊髄軟化症と診断され、当院に来院される前のお気持ちはどのようなものでしたか？
絶対助けたい、とにかく早く平野先生の元へいぬ雄を連れて行きたいという一心でした。 2つの動物病院で進行性脊髄軟化症と診断され一刻を争う状況の中、進行具合が早いのか遅いのかも分からず、京都に到着するまでにいぬ雄の命が持つかどうか不安で仕方ありませんでした。
当院での治療を決心され来院する決め手となったものは何でしょうか？
ホームページを拝見して。 ネットの情報はどこまで信頼できるものか日頃から疑うようにしています。動物病院のホームページであっても、どこかのソースからコピペされたのか分からないデータ等を平気で転載されている病院を多く見ます。実際に病院に行って話を伺ってみると違っていたり、自身のホームページの内容を医師が把握していなかったりと驚かすことにはいけません。そのため、右京動物病院のホームページで救命率 97%と掲載されているのを見て、すぐには信じることはできませんでした。診療時間外で尚且つ新規でしたが、かかりつけ専用ダイヤルに電話をかけオペレーターの方に事情を説明すると、深夜 1 時にも関わらず平野院長直々にお電話を下さいました。病状が悪化した経緯を丁寧に聞いてくださり、この先生は本物だ！絶対助けてくれると確信に変わりました。万が一助からなかったとしても、平野先生に最期を診ていただけたら納得して天国へ送り出すことができるなと思いました。

担当獣医師の説明や対応はいかがでしたか？	
<input checked="" type="checkbox"/> とても良かった <input type="checkbox"/> 良かった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪かった <input type="checkbox"/> とても悪かった	
理由	<p>初めて聞く進行性脊髄軟化症という病気について図解を交えながらとても丁寧に教えてくださり、これから受ける手術についても実際の症例写真をモニタで見ながら解説していただきました。残念ながら命を落としてしまった症例についてもお話しいただけたことで、期待だけでなく覚悟を決めることができました。また費用についても、大体の金額を事前に教えてくださり安心しました。</p> <p>術後は、術中の様子や手術部位の画像を見せてくださり、今後の入院生活についても詳しくお聞きすることができたので、来院するスケジュールも立てやすかったです。翌日の面会時は処置室に入れていただき、意識朦朧としている我が子を触らせてくださりとても嬉しかったです。退院日、これからの介護生活における注意点や懸念される尿疾患や与える食事等々たくさんの質問に1つ1つお答えいただき、またそれを録音までさせて下さいました。平野先生ご自身の愛犬も下半身にハンデがあり同じような境遇と知り、実体験として知っている方の介護生活のお話しが聞けてとても希望が持てました。</p>
担当看護師の説明や対応はいかがでしたか？	
<input checked="" type="checkbox"/> とても良かった <input type="checkbox"/> 良かった <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 悪かった <input type="checkbox"/> とても悪かった	
理由	<p>看護師の方、トリマーの方、皆さんに本当に良くしていただきました。ご多忙にも関わらず、毎晩その日1日のいぬ雄の様子を画像や動画と共にメールで送ってくださり、それが唯一の楽しみであり支えとなりました。また、こちらからの質問や要望などにも真摯にご対応いただき大変感謝しております。</p> <p>ご飯は、日によってドライが良かったり缶詰が良かったりとわがままな我が子に色々な種類の処方食をピュッフェ形式で与えてくださったとのこと、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。退院の際には、数ある処方食の中から好んで食べていたドッグフードをいくつか教えていただきました。細かいところにも気を配ってお世話してくださってたんだなぁと痛感しました。</p> <p>入院室にいる間、先生や看護師の方々がたくさん話しかけていただいたりなでていただいたり、寂しがりのいぬ雄も安心していたと思います。ずっと下痢気味でお尻を汚す度に洗ってくださり大変感謝しております。ありがとうございました。</p>
手術前の不安な点は何でしたか？	
<p>壊死している箇所が切開してみたら予想していたよりも進行していて手術ができないと断られたら、また進行スピードが予想以上に早く手術中に亡くなってしまったらと不安でした。</p>	
手術後に上記の不安は払拭されましたか？	
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ	
理由	<p>無事手術が終了したとの電話をいただき安堵しました。しかし、術後要注意期間の1週間を無事に乗り越えられるかがその後は不安でした。</p>
入院生活中はどのようなお気持ちでお過ごしになりましたか？	
<p>容態が急変したと連絡がきたらどうしよう毎日心配で仕方ありませんでしたが、毎晩メールで1日の様子を伝えて下さったおかげでその不安からも徐々に解放され、愛犬を身近に感じることができ不安や寂しさがなくなりました。</p>	
遠方の方で面会できなかった方はどのように過ごされましたか？	
<p>何かあってもすぐに飛んで行けるよう会社に事情を話し在宅勤務に切り替えました。毎週末1泊2日で京都へ滞在し病院に面会に行きました。その際2階のお部屋を貸して下さい、看護師の方から愛犬の日々の様子や圧迫排尿を教えていただきました。長時間に渡り家族と愛犬だけの空間を作って下さり大変感謝しております。</p>	

退院後の生活のためにどのような準備をされましたか？

これまで使用してきたサークルやトイレやベッドを廃棄し、2足でも自由に動き回れて且つ介護しやすい部屋にすべくレイアウト変更をしました。

介護犬との生活について本やインターネット等で調べまくりました。犬用のオムツを数種類、人間の超未熟児用のオムツを数種類、人間用の尿もれパッド、赤ちゃん用のオムツライナーを買いあさりしました。車椅子のお店を探して予約しました。軽度のヘルニアと診断したかかりつけの病院に信頼が持てなくなったので、改めて近隣の病院の情報を集め専門分野や緊急時に対応しているか等確認しつつも通院できるよう複数ピックアップしました。

今後は療法食がメインとなる為、気になるメーカーがあれば連絡をしサンプルを送ってもらいました。

通いのペットサロンでは下半身麻痺の犬は不可とされてしまい、病院併設のサロンや移動式ペットサロンカー等受け入れてくれるお店がないかを調べていくつか下見に行きました。

退院後の生活で困っていることや工夫はありますか？

- ・退院後ほぼ1日寝たきりの状態が続き、寝返りを打たせようとしても伏せの姿勢が楽なようでいつも同じ体勢で寝ていたからカエルのような開きっぱなしの後ろ脚になってしまいました。固まってしまった脚を戻すべく、根気よく毎日マッサージをしていたら左脚は元の状態になりましたが、右脚は柔らかくなったものの完全には元に戻りません。
- ・左後ろ脚が血が通っていないように季節関係なく冷たいです。右後ろ脚は異常ありません。
- ・退院後しばらくは体に力を入れることができず圧迫排尿が楽にできたのですが、徐々に腹筋が付き始めてお腹がどんどん硬くなり膀胱を探るのが難しくなりました。尿にキラキラとしたものが混じっている度に通院しストルバイトになっていないか検査しては「ただの浮遊物です」と言われ、「1日に6回も圧迫排尿する必要はない、過敏になり過ぎ、回数を減らして」と助言され、以降は1日4回にしています。今はお腹を絞りながらお尻側を押さえ膀胱を前後から挟むスタイルにして出し切れるようになりました。
- ・犬用のオムツは高いので、人間の赤ちゃん用のオムツに切り込みを入れ不織布のサージカルテープで中のポリマーがこぼれてこないよう補強して使用しています（犬用 /1 個あたり 65 円前後、人用 /15 円前後）。同じく犬用のマナーウェアも高い割にはおしっこ吸収量も少なく、人間の赤ちゃん用おむつライナーの方が肌当たりも優しく吸収率も良いので代用しています（犬用 /35 円前後、人用 /12 円前後）。少しの差かもしれませんが、長い介護生活を考えるとより安くより良い物がないかを模索していきたいと思っています。
- ・一緒に寝ていてもうるさくて起きてしまうぐらい、いびきがひどくなりました。軟化症が原因ではないと思いますが、たまに無呼吸の時もあり心配です。病院でレントゲンを撮ったところ、気管虚脱ということが分かりました。
- ・逆くしゃみの回数が増えましたが、これも軟化症が原因かは不明です。
- ・歯石を取りたいのですが、かかりつけの病院では全身麻酔と長時間の仰向けの姿勢をさせるのがかわいそうと断られてしまいました。
- ・首付近と肩周辺の筋肉が硬くなり動きたがらなくなるので、不定期ですが鍼治療と電気をかけに通院しています。通院当初は麻痺している部位を触っても無反応でしたが、今では毛の先に軽く触れただけでも麻痺していない箇所と同様に敏感に反応するようになりました。
- ・月1でドッグマッサージに通い、凝り固まった筋肉の筋膜リリースをしています。施術後は分かりやすく筋肉がふわふわになり、動きも軽やかで機敏になり家中走り回っています。下半身麻痺になってから上半身の筋肉が発達し見るからにマッチョマンで、これまで使っていた首輪やハーネス、洋服が入らなくなってしまいました。筋膜リリースをするようになってからは元の体型に戻りました。疲れが溜まってくると1日中だるそうに寝ていたり、遊びに誘ってもものってこなかったりしたのですが、ドッグマッサージに通い出してからは一切それがなくなりました。軟化症になる前よりも元気です。
- ・以前とは違って自由に動けないストレスから、退院後1年くらいは前足を頻繁にこねるようになってしまい肉球が炎症を起こしていました。散歩の回数を増やしたり、たくさんわんちゃんと触れ合わせたり、どんな体勢でも受け止めてくれるベッドに変えたりして、自分の体に慣れたというのが大きいのでしょうか、術後2年以上経過した現在では足舐めはなくなりました。

当院での治療を受けられたことを最終的にどのように感じておられますか？

とても満足 満足 普通 不満 とても不満

理由

命の恩人、感謝しかありません。どの病院でも何もできることはありませんと断られ、死を待つことしかできない絶望の中で右京動物病院を見つけた時は天が私たちに一筋の光を投げてくれたと思えました。愛犬がある日突然亡くなってしまって後から軟化症だったと知った飼い主の方、治療法がないと病院で断られ自宅で最後を看取った飼い主の方がたくさんいる中で、我が子を救命していただいたことは本当に奇跡としか言いようがありません。あのまま糞呑みにして諦めていたらと思うと怖い。出会う病院、獣医師によって生死が分かれてしまうのが本当に怖い。この病気がペットを飼う人たちに広く認識され、1日でも早く日本全国どここの病院でも当たり前に行術できる日がくるよう切に願っております。その為でしたら、微力ではありますが何でも協力させていただきますので、何なりとお申し付け下さい。

今後同じ治療を受けられる方にお伝えしたいことはありますか？

安心して下さい、また以前のように笑える日が訪れますとお伝えしたいです。退院後すぐは、慣れない圧迫排尿やオムツかぶれや自然に出て来ってしまうウンチの処理や、療法食を食べてくれない等々不安とストレスだらけです。それはわんちゃんも同じことで、今までと同じように動こうとして転んでしまったり、ひっくり返っても自力で起き上がれずパニックになったり、ウンチをしてもいないのに勝手にベッドに落ちていたり、なんで？どうして？と自分の体をコントロールできないことに恐怖を感じてストレスだらけです。ですが、わんちゃんは自分の病気のことを知らないで悲観して落ち込んだりしません。今の自分の体で出来ることと出来ないことをどんどん学習して吸収していきます。私はといえば以前の愛犬の姿を写真や動画で見ても落ち込み、よく一緒に歩いた散歩道を通っては泣き、どうしてこうなってしまったんだろう、無理をさせていたのかな？と自分を責めてあの日に戻りたいと過去を振り返ってばかりいました。現実を受け入れられない私の横で、中身は何1つ変わっていない愛犬がキラキラした目で見つめてきては励ましてくれるのです（実際にはご飯くれよと言っていたのでしょうか笑）。大変なのは愛犬のはずなのに、私が落ち込んでる場合ではないと奮起させられることがたくさん出てきます。始めは後ろ脚がついてこないことに戸惑って1歩も動けなかったのに、日に日に行動範囲が広がっていき、ごはんを前脚2本でバランスを取りながら逆立ちで食べたり、ぴょんぴょん器用にジャンプしたり、ぐるぐる回ってブレイクダンスしたり、驚くべき順応性と身体能力です。退院後2ヶ月で車椅子デビューしましたが、家の中ではちょっとした段差も怖がって歩けなかったのに、試しに外に出してみると他のワンちゃんを見かけた瞬間走り出した時は爆笑もんでした。あっという間に成長し、着実に前に進んでいきます。

その内に気が付くと、できなくなったことを数える日々ではなく、今日は何が出来るようになるかな〜とワクワクする日々が変わっていきます。そうやって犬によって成長させられていくのです。

車椅子で駆け回る姿は近所ではちょっとしたスターになりつつあります。頑張れー！、すごいなー！、かっこいいなあ！と通りすがりの人によく声をかけてもらいます。一所懸命走る姿を見て「励まされる」と言って泣いて下さる高齢の方もいました。我が愛犬ながら、とても誇りに思います。以前にも増して可愛くて仕方ありません。病気になってしまったことを嘆いても愛犬の成長や可能性を制限してしまうと思います。何が出来るかは分からないので、何でもチャレンジと一緒に成長していきたいと思っています。

不思議なことですが、うんちが出る前にお知らせをしてくれるようになりました。お尻を見ても出ていないのに奥にあるのが嫌なのか絞って出してあげるまで訴えてきます。感覚はないはずなのになぜでしょう。。この病気は未知なことだらけだと思いますが、次はどんな奇跡が起きるかな〜と今は愛犬の変化・進化と一緒に楽しんでます。

このアンケート内容を匿名で公表させていただいても宜しいでしょうか？

可 不可

最後に何かお伝えしたいことがありましたらご自由にお書きください。

平野先生、論文の掲載誠にありがとうございます。ずっと願っていたことでしたので嬉しい限りでございます。実はお手紙をいただく以前、昨年12月に靖えもん (@Vet_Yass) さんという方のTwitterで論文掲載の事実を知り、獣医師の方やペットを飼っている方々に広まれば良いなと思いリツイートさせていただきました。退院後、いくつか動物病院を回り診察してもらいましたが、いぬ雄の姿を見た獣医師の方々に「偶然進行が止まったんじゃない？」「病理解剖をしてみないと軟化症だったかどうかは分からない」と耳を疑うようなことを言われたりもしました。

この病気について詳しい先生は本当に少ないんだなと改めて思います。結果的にかかりつけの病院にこれからも診てもらうことになり、担当の医師が市の獣医師会の支部長でもあることから、勉強会の際に会員の先生方にもいぬ雄の件を情報共有していただきました。しかし、手術することについて9割の獣医師は反対であることが分かりました。2年経過した今ではもしかしたら持論、状況は変わってきているかもしれませんが、この間にも同じ病気で命を落としている子たちがいると思うとやり切れない思いです。できることとして、軟化症の疑いのある子には右京動物病院を紹介してもらうよう支部にお願いしております。

アンケートの返信が遅くなりまして申し訳ございません。発症した当時、救命できたわんちゃん達がどのように病と向き合いどのような生活を送っているのか知りたくてインスタやブログがないかたくさん調べましたが、軟化症という病気が極めて稀で且つ生存率が低いためあまり載っていませんでした。今同じ病気で通院されている飼い主の方にこれを読んでいただき、少しでも不安から解放され前向きになってもらえたらなあと思いこれでもかというくらい詳細を書かせていただきました。長々とすみません ^^;

これからもこれまで通り愛犬との楽しい日々が待っていますよ～！！がんばりましょう！

ご協力ありがとうございました。